

宇都宮市の
環境保全会

障害者の自立支援へ

農の福祉力

宇都宮市北東部の河内地区にある申内(さるうち)環境保全会は、障害者の社会的な自立を支援しようと、今年からユニバーサル農業に取り組み始めた。6月下旬には、保全会会員ら20人が保全会会員の圃場(ほじょう)で社会福祉法人かわち四つ葉会「グリーン・かわち」の利用者3人を受け入れ、花の苗植えなどを行った。

ユニバーサル農業は子どもや高齢者、障害者など誰もが農に親しみ、植物や土に触れることで癒やされる心理的効果など、多彩な効用を受けることを通じ、農業・農村の理解促進、社会的価値の向上につながる取り組み。近年、農業の持つ「農の福祉力」が目ざされ、障害者などの自立支援の手法として期待されている。

今回は障害者の社会的自立を促すこと以外にも、景観整備による近隣の住民への癒やし効果を与えることも目的とした。当日は利用者が会員

花の苗植え 地域景観も美しく

この会話を楽しみながら、共同作業でマリゴールドやサルビアなどを圃場に植えた。同会会長の落合一男さん(67)は「今後も地域景観の整備と障害者が地域と交流できる場づくりに取り組みたい」と抱負を語る。

保全会は2015年に活動を開始し、農地などの多面的機能の発揮を促進することを目的に、地域住民との交流を深めながら、農地などの周辺環境を保全管理している。会員は地区の農家を中心に構成され、農家ではない近隣住民も入っている。(栃木・うつのみや)



苗植えに取り組む利用者と会員